

# 関西ワールドマスターズゲームズ 2021 の展望

—無形のレガシーに着目して—

高重 由麻 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：関西ワールドマスターズゲームズ，無形のレガシー

## 1. はじめに

2020年に、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催される。その前年の2019年にはラグビーワールドカップ、2021年には関西ワールドマスターズゲームズ（以下、WMG）が関西広域で開催されることとなっている。このような国際的なスポーツのメガイベントが次々と開催される国は、実は稀である。

そこで本研究では、関西WMGに着目し、開催後どのような効果が社会に及ぼされるのか、そのレガシー<sup>1</sup>について紐解くこととする。それとともに、開催において期待される非可視的な無形のレガシーの創造と、関西WMGの開催意義について検討した。

## 2. 研究方法

研究方法は資料分析とする。関西WMG大会基本計画、その他複数の文献を参考資料とし、本研究のエビデンスとして整理、集約した。それらをもとにナッジ理論<sup>2</sup>等より得た知見からヒントを得て、関西WMGの大会運営に効果的なレガシー創造のための試案を展開した。

## 3. 考察と結果

文献・資料調査の結果、関西WMGの大運営計画や、大会成功のための取り組みが明らかになった。大会参加者の目的には、競技参加だけでなく観光等も入っており、家族単位での大会参加者も多い。したがって、開催地のインターネット環境の整備はインバウンド<sup>3</sup>に直結し、大きな経済効果も見込まれることから、大会参

加者が観光しやすい環境を整えることも重要となる。関西WMGは、スポーツ実施率向上へのアプローチが見込まれることから、そうした問題の解決策にもなりえる。そこで、関西WMGでは無形のレガシーを計画的に創造することで大会の意義が大きな効果をもたらすことになる。

## 4. まとめ

無形のレガシーの創造には「観光しやすい仕組み」「自然にスポーツに関わる仕組み」「積極的な学生ボランティアの参加」の3要素が重要であると本研究で明らかになった。これらのことは、関西WMG大会成功の一助となりうるであろう。

図1は、計画的に無形のレガシーを創造するための3つの要素例である。この図にある要素は、「計画的」な取り組みによって「無形」で「ポジティブ」なレガシーを創造することができる。これらに関西WMGの開催意義とし、本研究の結論とした。

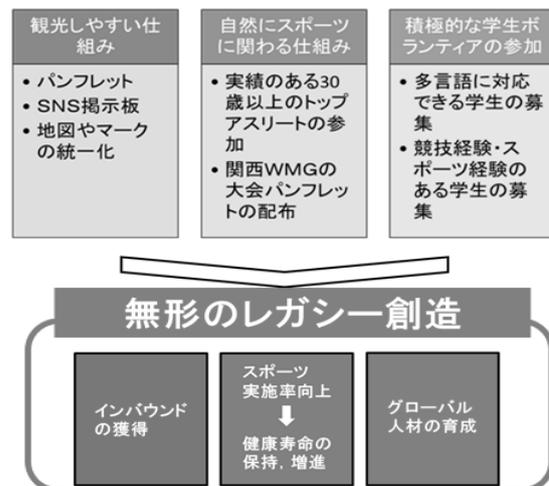


図1：計画的・無形・ポジティブなレガシーを創造する3要素例 (筆者作成)

## 主な引用・参考文献

関西WMG組織委員会(2016)「関西WMG2021大会基本計画」他

<sup>1</sup>英語では「遺産」や「先人の遺物」と訳されることが一般的。元はラテン語を起源とし、「特使」という意味で使われた(間野 2013)。

<sup>2</sup>ナッジとは、「肘で軽くつつく」という意味であり、行動経済学ではこれを「正しい行動」をとらせようとする戦略とする。規制や強制ではなく、気が付かないうちに行動を起こし、それが本人の利益になりうる「仕掛け」のこと。

<sup>3</sup>外国人旅行者を自国へ誘致すること。日本において、海外から日本に来る観光客を指す外来語。